

0180

給油艦一

0181

鶴見

宣書局

第一課

鶴見第一二三

大正十四年十一月十九日

海軍大臣 財政部 彪殿

鶴見特務艦長 黒羽根 秀雄

特務艦 鶴見 第一七回 輸送報告

輸送元	輸送先	運出者	数量(英噸)	数量 累計
バルバドス	徳山	重油	八七・九・三五	三〇・四九・〇・七五

備考

行動
 十一月一日 徳山 保發 十一月十日 バルバドス 看全 十四日 發
 十一月六日 徳山 看
 十一月十八日 於 徳山 馬公 輸送 八七・九・三五 噸 搭載

右報告ス

録

録

運送

15. 8

海

官房 第六

軍需局

0183

軍務局

運送艦

15.2.22 受接

13

海軍

第一九〇三

大正十五年一月二十七日

鶴見特務艦長黒羽根秀雄

海軍大臣 財部 彪 殿



一特務艦鶴見第十八回輸送報告

壹通

右様出又 第二課

(別紙添付)

(終)

第一課

猿

大正十五年一月二十七日

15.2.20

特務船鶴見第十八回輸送報告

一月十八日 至 一月廿一日 三日間、左表、如ク奉送先キ、積込
 了レ全三日前十時佐世保、奉送先キ、積込
 南方、假泊全日前七時出港、八時馬公入港、直ニ批
 送品、配送ヲ行フ。重油ニ千五百名、八千五名、兩日ニ陸揚
 ケリ了ス。月材ニ三名、積込積卸共起重機船ヲ使用ス
 尚批送ニ関シテ、輸送規程ヲ港務部經由ノ下ニ各部
 協定セリ。

輸送品目録

人負之部

便乗者	東航地	下航地	摘要
准士官 一	佐世保	馬公	馬公方面へ轉卸ニ付
兵 一			
軍人家族男 三			馬公へ轉卸ニ付
軍人家族女 二			

事

重

		物品之部			
行先地名	番付	品名	数量	摘要	
高雄炭俵所	徳山炭俵所 徳山炭俵所支所 徳山炭俵所支所	炭俵	一三八二担	甲寅炭俵所 西田炭俵所 六八炭俵所	
馬公要港部	徳山炭俵所支所	生牛油	二五〇噸		
馬公防備隊	徳山炭俵所支所	生牛油	八五五担		
軍艦的橋	徳山炭俵所支所	需品	一九担	刺道兵瓦	
馬公要港部	徳山炭俵所支所	軽油	七二〇噸		
工作部	徳山炭俵所支所	材料	一六二五九担	亞鉛地金鋼線等	
馬公要港部	徳山炭俵所支所	需品	八〇担	鐵手桶 鐵罐等	
馬公防備隊	徳山炭俵所支所	全右	七五担	警放防腫物等	
全右	徳山炭俵所支所	被服物品	一二〇担		
軍艦的橋	徳山炭俵所支所	全右	二〇担		
馬公防備隊	徳山炭俵所支所	需品	五二七担	鐵手桶 夜光筒等	

洋
貫

<p>合計</p> <p>私有品所有物者人名及其所在</p>	<p>善主人名及其所在</p>	<p>品名</p>	<p>数量</p> <p>一九八三七號 七二〇〇五</p>	<p>摘要</p>
<p>高公海軍購買行</p>	<p>佐世傳市橋町 西山甚一郎</p>	<p>雜貨</p>	<p>九〇點</p>	
<p>合計 右</p>	<p>古賀徳一</p>	<p>合計 右</p>	<p>八〇點</p>	
<p>高公長次栗垣 爽聖 盛助</p>	<p>佐世傳 本 人</p>	<p>家具衣類</p>	<p>一八〇點</p>	
<p>高公防備隊</p>	<p>佐世傳 海軍少佐 菅原 隆次郎</p>	<p>雜貨</p>	<p>四八〇點</p>	
<p>高公海軍購買行</p>	<p>佐世傳市橋町 西野 房吉</p>	<p>雜貨</p>	<p>九〇點</p>	
<p>合計 右</p>	<p>佐世傳市橋町 川原 大太郎</p>	<p>合計 右</p>	<p>九〇點</p>	
<p>高公港務部 高公 長次栗垣 水野 吉之助</p>	<p>佐世傳 本 人</p>	<p>家具雜貨</p>	<p>一五〇點</p>	
<p>合計 右</p>	<p>合計 右</p>	<p>合計 右</p>	<p>一三一〇點</p>	<p>(終)</p>

事

實

軍需局

2810

事務局

一九一五年二月十九日

大正十五年二月十九日

第二課 鶴見特務艦長 黒羽根秀雄

海軍大臣 財部 彪殿

特務艦鶴見第一回輸送報告

輸送元	輸送先	輸送品名	数量	(英噸)	数量	累計
夕ラカン	徳山	重油	八四	参	壹	四七
徳山	佐世保	生産重油	八一	六	噸	五八四・二
						壹五・四五

右報告ス

第二課

15.2.25

海軍

15.2.25

軍需

大正十五年五月二十六日

特務艦鶴見第十九回輸送報告

海軍大臣 財部 陸軍 監印

鶴見特務艦 大黒川根

輸送元	輸送先	軍需品名	数量	英噸	数量	累計
米國 ホトコス	徳山	重油	八三八六六七		二三八五二八	八二〇四五
徳山	佐世保	製産油	六五五五〇〇		二四五〇五四	八二〇四五
横須賀	佐世保	<small>海軍特務艦中隊 普通船隊中隊 習生卒業生</small>	七七名			

備考

右報告 終

(終)

海

軍需
15.6

軍用
五月廿九日

15.6.29
受接

軍務局長

第一課長

島正世 保羅守府 参謀長

第一課 林海軍省軍檢局長殿

大正十五年三月九日

軍務局長

特 第一回 (バリツクパパン) 行動報告

一 進

二 回 第二回 (タラカン) 行動報告

一 進

三 回 第三回 (バリツクパパン、タラカン及馬尼刺調査報告)

一 進

水路部長

右送付ス

軍令部

(加紙添)

軍務機密第一〇七號

各

研

自

自

自

自

自

自

自

自

自

自

15.3.16

軍令部
15.3.20
受接

15.3.12

海

軍

0670



バリックパニン
タマカン及馬尾刺

調査報告

特務艦 鶴見

1916

註

バリッククバパン

大正十四年十二月四日 調査

タイカン

大正十五年二月三日 調査

烏尾刺

大正十五年二月八日 調査

- 一 棧橋橫付設備 及 附近水凾
- 二 水路
- 三 海陸兵備
- 四 地方沿革 人口 人種 住民 教育 機關
- 五 市街設備 及 道路
- 六 待選 感情 風俗

棧橋横付設備 及 附近水深

バリックババン

本次航行に於て事前ノ研究ハ主トシテ夙願素印度巡航誌録依リテ

此等ニ新棧橋ニハ棧橋前端部ヲ約 米南方増築シツ、アリ

尚第三新棧橋等四棧橋送油管八吋六吋各一ト凡ハ實際十吋ニ改設

セラレリタリ其他同録ト大ナル異異ヲ認メズ

前月未航セ尤早航ス又本艦ニ次テ来リシ石廊ニ同シク新棧橋ニ敷系

留シタリ附籠ス上陸ニ祝園棧橋ヲ用リ

新築三棧橋附近ノ水深ハ六尋内外ニ流速約一節ナリ要スルニ棧橋

附近充分浚業シテハ元港外ニ急流線附近ニ淺所アリ重油搭載量ニ

對スル吃水ニ對シテ注意ヲ要ス

雜 件

棧橋係、三年四月十八日、係人ニテ二年四月十九日、来リタル云々ニシテ

特務艦對相當程解有之又如才之對應タリ
夕ラカン

此地新旧二個横付橋あり由型船以下、旧橋ヲ使用シ新
橋橋六堂ニ大型船ニ當ツ

是幸ニテ附近水深ノ関係上深艦ノ出難易アルト從トシテ棧橋横
付部々水深下ニ因ルニ十八之ニ旧橋橋ノ三ノ時ニハ鯨見型ヲ常ニ上下

横付ヤルヲ以テナリ

横橋ノ概要

新棧橋	旧橋	横橋
幅 長十五。末 五末 木造	幅 長四。末 五末 木造	名要 目 構造 鐵骨
送曲徑八寸一六寸一結 水管二寸一七寸軌道番人 小屋	送曲徑八寸一六寸一結 水管二寸一七寸軌道番人 小屋	設 備
低潮面四。呎	低潮面二。九呎	横付部水深

横付設備

舟艇

會社大小機動艇數隻ヲ有シ内ニ三隻ハ常備スルニ横付ニ使用ス
此ハ通例ニ隻ト再ハ横付ニ際テ本艇内大艇ヲ準備スルヲ要ス
只數緊留索ニ對スル設備

旧棧橋ハ一棧橋外端ヲ由ハトシ四方ニ數緊留用浮標四個アリ

新棧橋ハ左右ニ全ク但シ内側ニ個ハ浮標ノ代リニ個ハ橋名ヲ置ク

繫柱ノ經約一末

兩棧橋トモ橋ノ外端ニ近クスプリング用ノ繫柱ニ個ヲ有ス

兩核橋ノ比較

新核橋其設備給油力及附近水深等凡テ旧棧橋ニ優ルト云

旧棧橋ハ從來トテ中心トシテ凡テノ設備ヲナシタルモノナリ殊ニ陸上トノ

交通等ニ大ニ便ナルト云フ有ス

附近水深

海圖記載ノモノニ近シト信シテ可カラズ

但新棧橋用繫留浮標ノ外方ニル魚尾附近ハ特ニ注意ヲ要スル
 又ノアリ大正十五年二月三日日本艦入港ノ際英船カシタレカゴ一六九九
 トンバカーセントンノ旧棧橋ヨリ出港ノ際之西方魚尾附近ニ座洲ニ
 約五時間ヲ要シ漸ク高洲ニタルヲ目撃セリ

マニラ

一棧橋

海圖六四八ニ示ス如ク一ノ五五五第六ノ船舶用浮橋ヨリ他ニ増
 築セラレシモノ又セラレントスルモノヲ認めサルモ目下亦七柱ノ橋ハ猶修工事
 ヲ繼續中ニシテ其規模ノ宏大ナルヲ遠ク望メバ造船工場ノ如ク

棧橋ノ概要

棧橋名	要目	構造	造	貨物収納力	記
第一棧橋	最小				陸軍専用要塞交通用

要目少くも

第三棧橋	長 六〇呎 七〇呎	右	五〇〇ト	一月一回、東洋汽船定期、此棧橋に到着す
第五棧橋	長 六〇呎 一〇〇呎	右	九〇〇ト	橋に到着す
第七棧橋	長 一三三呎 中 三三〇呎	右	二〇〇〇ト	實用迄迄竣工セリ

桑港等比較スルニ數ニ於テハ其八分一ニ及ビルモ第七棧橋ノ如ク
 宏大ナル又又桑港ニ於テ見ル可ニス

二 横付設備

一見之ル所普通高船棧橋ノ如クニ特別ノ設備ヲ見ス

三 附近水深

本艦ノ入港時僅モ第七棧橋ニ三万噸級ノ高船横付ヲシテ翌日

出港ヤリ甚クモ同棧橋附近海圖記載ノモノヨリ浚渫スルベシ

四 上陸棧橋

海圖ニ四ノ六七棧橋ノ南東一三〇〇米所ノ長約六十呎ノ浮

棧橋ニテ工カスヒシ棧橋ト云フ(海圖ニ上陸場ト見スルニ誤リ)棧橋ノ上六〇

島水率中

三十五呎ニ浚渫

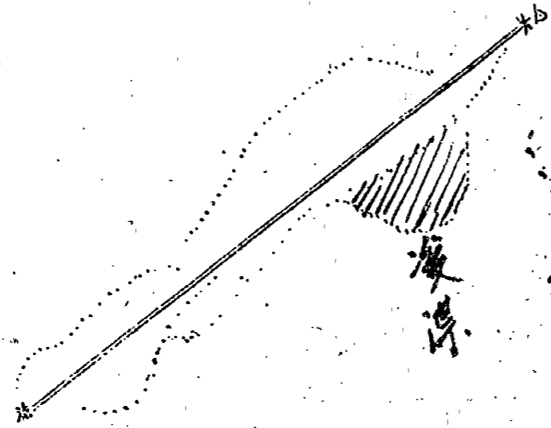
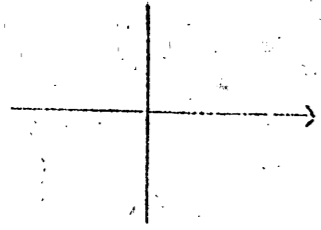
スル

4610

シテレヲ備へ尚附近ニ喫茶店アリ酒ノ外飲食物等ヲ販賣ス
夜間棧橋ニ達着スル前ニ錨地ニヨリテハ第七棧橋ノ外浮標ニ
注意ヲ要ス

雜件

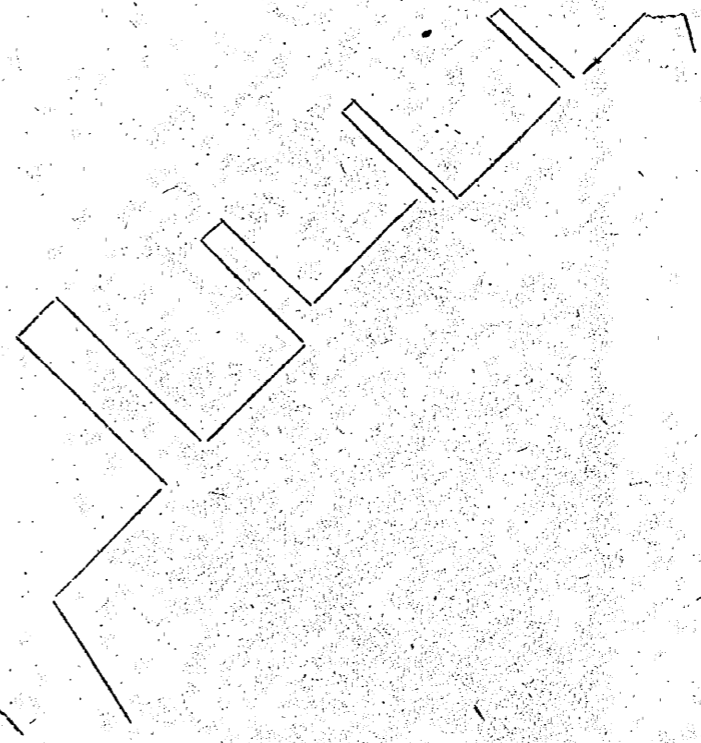
時恰モカーニバル祭ニテ米國艦隊ニ在港ニ其ノ定期此ノ棧橋
彌集ヤカ来ルモノ右舷ニテ出船ニ付ケ其ノ用向テ了ラハ直
ニ登陸ス迎等ニテ若干時待ツモノハ棧橋ノ奥(東方)ニ停止
シ棧橋敷整理係ノ下任官ノ招呼ニテ直ニ着テ直ニ登陸此
混雜ヲ見ス定ニ整然タルノ特筆ニ値ス



水深千四尺

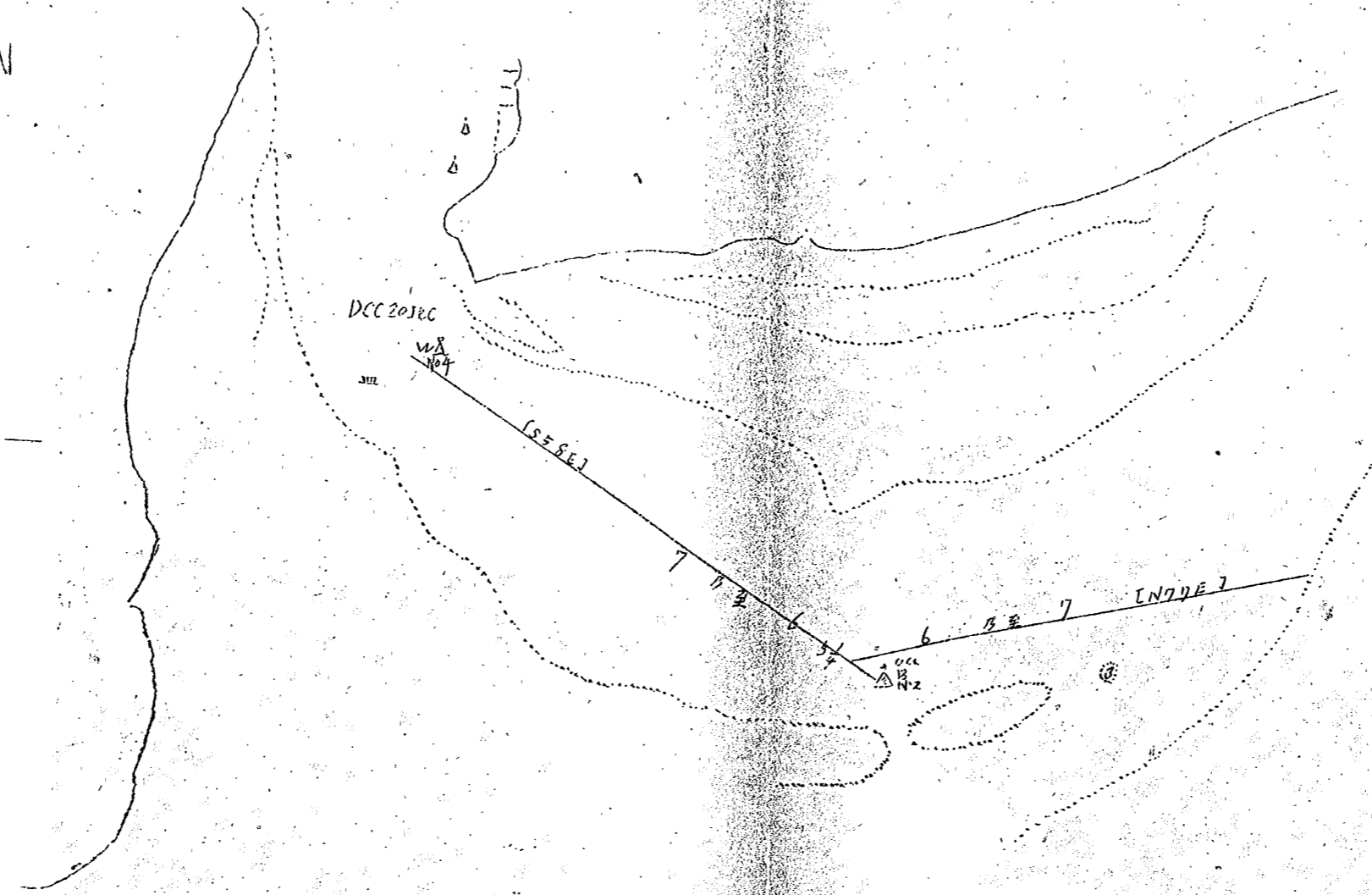
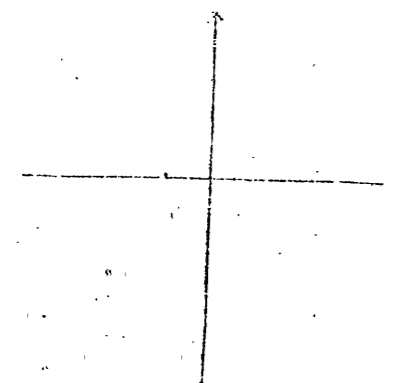
水深千四尺

水路。○より防波堤内、於て海圖に異なり、
 實見其水先人、志は極く左圖に
 圖中未嘗、海圖に異なり、
 堤の平均三呎、水深、千四尺
 常々三呎、水深、千四尺、
 為在、海中、堤の各部、水深
 三呎、千四尺、
 千四呎、千四尺、
 千四呎、千四尺、
 千四呎、千四尺、
 千四呎、千四尺、



0020

BALIK PAPAN
No 539 同尺度

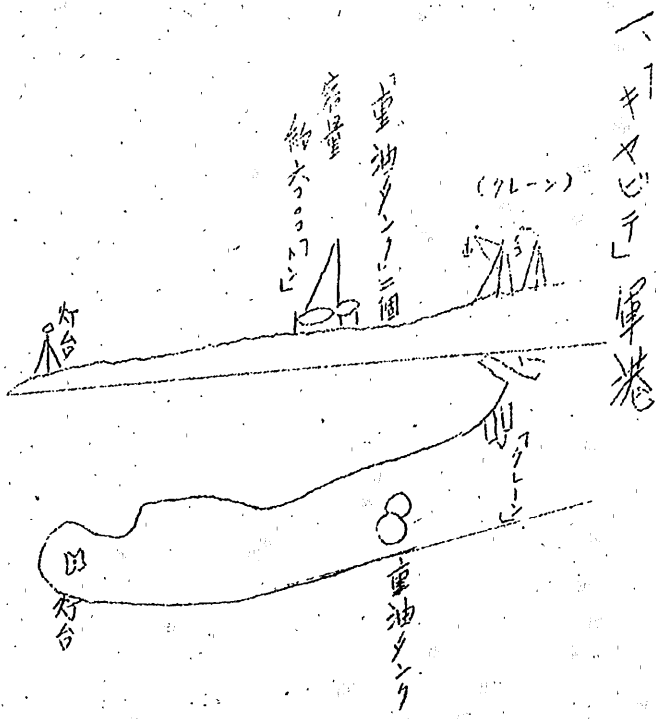


Cables



Pilat
ms. 301.

水路のバリックパン燈船四番浮標間水深
十四年五月十四日バリックパン出港ニ際ニ測深ヲ行ヒタルニ左圖ノ如キ結果ヲ得タリ
二番浮標通過時ニ高潮時ニ七、八

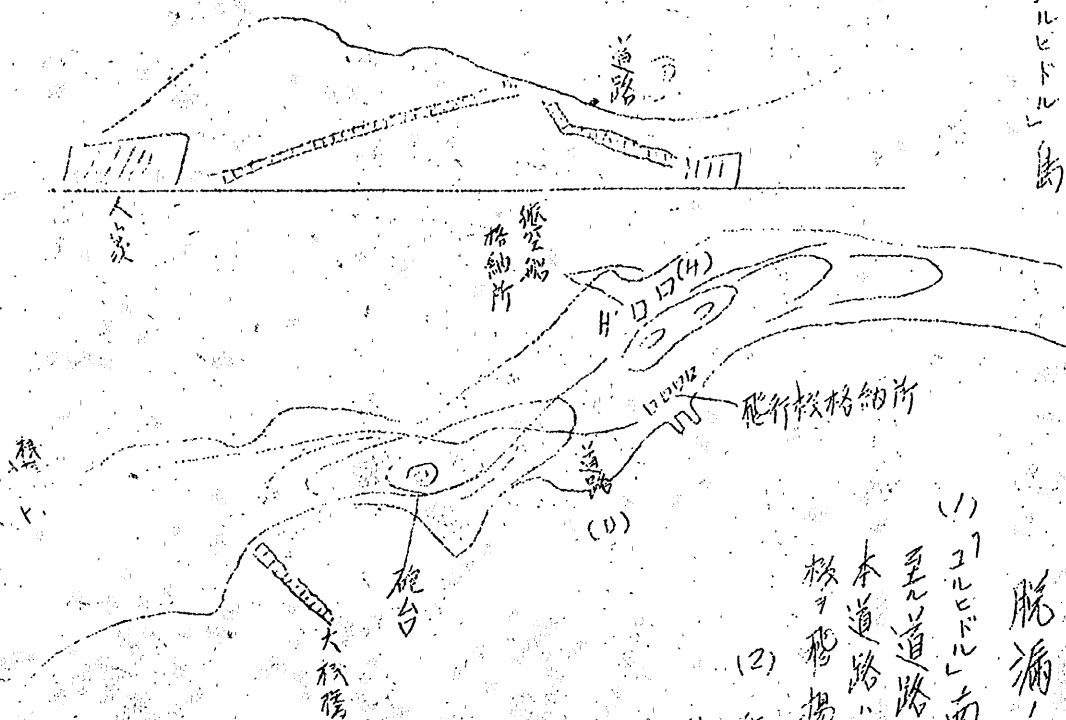


海陸兵備
 特務隊機體報告中脱漏、部分ヲ左ニ追加ス、
 「キヤビテ」軍港

0202

「コルビドル」島東部(約N=20)

「コルビドル」島



脱漏部

(1) コルビドル南岸飛行格納所より全島北岸に至る道路北岸ハコリモ報告Aニ見道路ニ連ル本道路ハ南西手前節凡際全島北岸ヨリ飛行格納所揚スル局ナシモ用ヒラルトス

(2) 航空格納所

H = 南 E = 岡口

H = N W = 岡口セリ

市街設備及道路

一 リンカス村

(イ) リンカスハ旧橋ノ北西海岸線近ク之ニ併行シ約百六カ
 リヨリナル貧弱ナル部落ニシテ少数ノ土人家屋アルモ主トシテ
 支那人商家ナリ港務部長官舎亦此ノ地ニ有リ昔後ノ高
 地ニ石油槽ノ設備アリ道路ニ沿ヒ石油會社出張所
 事務所發電所及其ノ附近ニ左ノ關係社員ノ住宅等若
 干アリ

(ロ) 道路ハ約三回車ノ一ノ助道クラカクハ一貫ノ地質荒砂利ナ
 リ以テ降雨ニ際シラヌ泥濘ナニス自動車ヲ用スルニ適スト云フ
 ニタラカン村

(ハ) タラカンハリンカスノ北ニ約二哩ノ所ナリ石油會社所在地ニシテ
 市街宏壯ナラト雖比較的大人家屋一偶々算算アルモ

主トシテ木骨木造ナリ軒ヲ並テ幸ハ建物トシテ郵便局
 敬言警察署劇場市場兵營石油會社事務所全附
 屬病院凡全社宅等アリ又會社構内中央道路西側ニハ
 宏大ナル数棟ノ全會社苦力ノ宿舎配列シ下水等ノ
 設備全備シ一般清潔ナリ電燈電話ハ會社専用ニ
 シテ市民ハ洋燈ヲ使用シヨレリ水道設備ハ水流量
 豊富ナルガハタ現ニ在留邦人ノ如キハ支那人ヨリ一荷五錢
 ヲ拂ヒ之ヲ購買セサルベカラズ其狀誤アリト云フ公園旅館等
 之キモノ見當ラズ

市街ノ構成ハ一般ニ廣闊ナリト雖沈靜ニテ下水其他設備
 可見ス所謂本通ノ外ハ概シテ不潔ナリ是等居住者ノ過半ハ
 支那人商家ニシテ其執力侮ルハカラスナリ商權ノ殆ト全社
 ハ彼等ノ手掌握中ニアラス
 (四)道路ハリニカスナリ一貫せん外市街ニハ東道ヲ見ルニ特能ク

ハリックマン市街及道路

ケラダサン、バタフヒセ、石油會社工場擴張、關係上
一般住民、旧邑ヨリ以地ニ移轉セシメ新タニ創造セラ
レタル新市街ニシテ主トシテ支那人及土人ノ住居ヨリナリ
日本人、其ノ間ニ雜居スルモ少數ニシテ云フニ足ラス

ト云フ
戸數ハ現在約六〇〇ヲ數フルモ尚ホ漸次増加ノ勢ナリ

住居ノ構造ハ主ニ木骨木造(偶ニ草葺ノ家ヲ散見
ニシテ)宏壯ナラザルモ比較的大ナリ主ナルモ其ノ六六六
支、土人各小學校、税関警察、港務部郵便局、監
獄、市場、病院、公園(病院公園)、會社(經營旅館)
官營)活動字真館等、白人、市街附近廣大ナ
ル一區域ニ清楚ナル社宅官舎ヲ有シ又工場地背後

高地東西兩側及中後等ニ居ヲ占メ市中ニ穀
 居スルモノナシ

カンホンバルハ戸數僅々約三〇〇ヨリナル貧弱ナル小邑
 ニシテ何等ノ設備ヲ有セズ主ナル道路ハカンホンバルヨリケ
 ランダサン「ブツサル」(無線電信所在地)ニ至ル一軌道道路
 (幹線)ニシテ常時多數ノ自動車相交通ス又人合社、
 カンホンバル「ケランダサン」兩地間ニ軌道ヲ敷設シ電車ヲ
 通シ専用ニ供ス

人情風俗感情就テ

① バリックケルヤン

一般ニ平糶ナレ共盜癩アルモ多ク急情ニテ財産瓦間
 ハ徒食ノ風アリ亦蘭人土人共晝寝ヲ風習トシ正午
 頃ヨリ午後二時頃迄ハ事務ヲ中止シ土人ハ殆ント半裸
 体ニシテ腰部ニ更紗ヲ纏ヒ土耳古帽等ヲ冠リ更紗
 鉢巻ヲナシ亦近頃洋服ヲ着セルモイルニ跳足ヲ靴ヲ
 穿セルモ稀ナリ土人ハ音楽舞蹈ヲ好ミ土人貧産見
 子弟ノミ教育ヲ受ケ他ハ皆無學ナリト云フ新入
 ニ對スレ感情ニ比較的好感ヲ有シ殊ニ進化志ハナド
 人ハ日本人ニ酷似シ日本人ハ後裔ト自称シ是等ハ
 甚ク好感ヲ有シ居リ大正七八年頃新嘉坡方面
 ニ於テ排日思想ハ傳播影響セラルト云フ

(一) タラウケン

最近襟裳調査報告、如ク一般ニ過順ニシテ盜賊アル如ク同キ居タリシモ在留邦人ノ言ニ依リ割合ニ正直ニシテ只店頭邊ニ置キ忘レシ等ノ場合盜ム如キ事ナク決シテ屋内ニ侵入シ盜ム如キコトナシト云フ其ノ他、殆トハリックパバント同シ邦人ニ対シテ感情ハ土人支那人ヲ通シ、悪感ヲ有スル事ナク日本人ニ待遇宜シキトノ事ナリ

(二) マミラ

同シク最近襟裳調査、如ク土人ハ自惚心強ク怠惰ニシテ財産金錢有ル間、從食シ早熟早老又氣性、如ク元冷熱共ニ強ク賭博音楽舞蹈ヲ好シ邦人ニ対シテハ好感、有ル居ト云フ

0209

2728
2729

特務艦鶴見第一回「ブリックマン」行動報告

大正十四年十二月

バリックパパンの行動報告 (自大正十四年十一月一日) 至今 年十二月十九日

一、行動

一帳

地名	着	發	記 事
佐世保		十二月一日	
バリックパパン	十二月十一日	十二月十四日	十一日午後原油搭載開始 十二日午前右 終了
徳山	十二月十六日	十二月十八日	原油八三九噸三五 陸揚 生産油六五〇噸 搭載
佐世保	十二月十九日		

二、搭載原油量

八一三九噸三五 (バリックパパン) 搭載 徳山の陸揚

二五〇噸 (生産油 徳山) 搭載

三、行動中の天候気象

往路、佐世保出港以来一週間連日風波強烈、リシモ七日、

六 衛生

クナラレ北方ニ達セシ頃ヨリ風殆ント止シ、ハリックパン^ニ入港迄静穏ナ

ル航海ヲ續ケタリ段路ハ、ハリックパン^ニ出港以來連日好天ナリシモ州

ンヘルデーデ^ニノ海峡通過後連日偏北風相当ニ強吹シ九州南岸

ニ達スレ^ニハ十節、回轉ニ對シ平均艦速六、五乃至八節ニシテ

豫定徳山入港期日ヨリ一日遅延セリ

四、船体兵器核関、何等異状ナシ十三四日兩日ハリックパン^ニ於

テ機械各部ノ調整手入ヲ行ヘリ

五、教育訓練並ニ保存手入

石炭繰其、他、雜業並天候ノ障害ヲ受ケ實施回數少ク大
要左、如シ

基礎教育

三四回

綜合教育

一一回

保存手入

一四回

衛生状況極メテ良好ニシテ行動中熱射病ニ感胃ニ花
柳病ニテ出セルミナリ

七、雑件

(一) バリックバパンニ於テ港務部長ニ着訪シ守備隊長コントローラ

一、重油會社マネージャーヲ訪問セリ

(二) 在留邦人中患者五名ニ要望ニ應ジ軍医長ヲシテ診察セシ

メタリ

八、各科ノ行動概要ハ次ノ如シ

航海科

一 自佐世保軍港至 *Balikpapan* 經過概要

十月一日午前十時

佐世保出港

今 十日午前九時十分 *Balikpapan* 入港 (西部標準時)

午後零時十分 C 棧橋横付ス

總航程 二五六五哩

(一) 航路

佐世保 - 沖之永良部 - *Mindanao* 南東端 *Singapore* 等

Balikpapan

(二) 自佐世保至沖之永良部 (自十月一日至今月三日) 三四六哩
揚子江方面、高氣圧著シ、發達シ加フニ、朝鮮南部ニ低氣
圧アリ、爲ニ西風強吹シカセ、至八曇天ニシテ、天日ヲ見ス、横當急

ニ於テ始メテ艦位ヲ確ムルヲ得タリ

奄美郡島附近、到リ、風力衰ヘ天候恢復ス

③自沖之永良部島至 *Sun Agustian* (自十二月三日至今月八日) 二

七七哩、三四兩日天候晴、緯度ニ三度半ニ於テ北東信風ヲ感ス、力

ニ一三、四日夜半ヨリ風力次第加ハリ六、七ヲ導スルニ至リ、驟雨ニ曇

天ニシテ驟雨ノ襲來頻繁ニシテ、七日午後 *Mindanao* 北東岸 *Isipog*

發見迄僅ニ三回ノ天測ヲ行ヒ得タルニ過クス

雨後風力次第衰ヘシルモ屢々猛烈ナル驟雨ノ襲來ヲ受ケタリ

④自 *Sun Agustian* 埼 至 *Balik Japan* (自十二月八日至十二月十日) 七四一哩

天候晴朗ニシテ風力微弱海面油ヲ流シタルカ如ク靜ナリ驟雨ナシ

燈船ニ於テ水先人ヨリ乗船セシメ、十日午前九時三十五分入港、碇留ス

二、海流

ハ呂宋東方

緯度千度附近より十度附近迄一時間約。五ノ西流ヲ感ズル

② Mindanao 東岸及南岸

Pb Rajah (9.20 N, 126.16 E) 自 Su Augustin 埼迄巨岸約七哩
流向一八。度 流速一。一五節

Su Augustin - Sarangani (4.20 N, 124.0 E) 附近迄流向三。度、流速
二五。一。節

③ Celebes Sea

(2.50 N, 122. E) 附近、Celebes 島北西端迄流向約一八。度流
速約。五節

④ Balikpapan 至徳山 經過概要

十二月十四日午後四時(西部標準時) 出港
本月二十日午後六時四十分 徳山入港

総航程 二四一三哩

二 航路

Balikpapan - Suluik 水道 - Apo I. - Janam 水道

St. Bernardine 水道 - 徳山

(一) 自 Balikpapan 至 Pease Bank (自十一月十四日至本月十六日) 五二九哩
概々晴天ニシテ風力。一ニ海上極メテ平穩ナリ

(二) 自 Pease Bank 至 Apo I. (自十七日至十八日) 二五六哩
晴天ニシテ風向北々東、力三三四 海上静

(三) Janam 水道 St. Bernardine 水道 (自十八日至十九日) 二七七哩
Janam 水道中央部ニ於テ日没トナリ此ノ頃ヨリ雲量増大シ

兩岸連山雲ニ蔽ハレ頂界線ヲ見ルコト能ハス 霧気アリテ
視界約五哩

水道北端ニ達スル頃視界ナホ狭小トナリ驟雨ノ模様アリシヲ
以テ遂ニ針路ヲ変更シ天明ニ至リ之ヲ通過ス

十九日午後七時 St. Bismarck 水道ヲ通過シ終レリ

(四) 自 St. Bismarck 至 德山 (自十九日至二十六日) 一三五一哩

水道通過後二十日迄晴天曇相半セル北西ノ風強吹シ

力六ノハヲ算シ波浪高ク實速最小五、五節ニ及ヘリ

二十日(三三度北一三八度五分東)ヨリ風力次第ニ衰ヘ爾後天候良

好海上静ニシテ二十七日德山ニ入港スルヲ得タリ

四 潮汐

(一) Silute 水道

十六日午前八時 Silute 燈台ノ南約五ノ哩ニ於テ約一節ノ南

流ヲ感シ爾後十七日午前二時頃 Pearl Bank 一節ニ逆

潮ナリキ

Bongas 島附近最大ニシテ三節半ノ潮流ヲ感シタリ

Pearl Bank 附近不明

0218

三) Balik Papan

一日一回。高低アリ流連ノ節由外ナリ

3

藤

通信科

比島方面ニ関スル通信状況

一 各無線電信所ノ受信状況

(1) 神戶海洋氣象台

比島沿岸ニ接近スルニ從ヒ陸上ノ各無線電信所ヲ發
スル小波長ノ電波並ニ空電ノ急ノニ妨害サレ往航ハ
北緯十五度東經百三十七度附近直距離約千四百哩
航ハ北緯十八度東經百三十六度三分直距離約千二百哩
迄受信ニ得タリ

(2) 東京無線電信所

往航ニ東京ノ受信ハ北緯六度東經百三十六度直距
離約千哩ヲ以南航ニ北緯十五度東經百三十五度
地真ニ至ル間A、V、A及空電ノ急ノニ受信不能トナリ

(ハ) 鳳山無線電信所

文信区内外ニ於テハ連絡ヲ採トザリシヤトオクバリツクパパンニ
ニ至ル迄常ニ連絡ヲ保テ居タリ

(ニ) 鶴見並ニ佐世保ニ無線電信所間ノ通信試験水艦ハ
十二年式五ボロト送信機ヲ裝備後最初ノ行動ナリシ
カハ今回ノ行動ヲ利用シテ本所ト通信試験ヲ施行
セシ晝間ハ北緯十三度東經百三十三度三十分直ニ距離
千二百哩夜間ハオバリツクパパンニ至ル迄直ニ距離
千二百哩
追ハ完全ニ通信ヲ得ル記録ヲ得タリ

(二) 防信ニ就テ

ヒリツピシ⁷方面ニ行動中通信ノ防害ヲ急スモノハ大要

友ノ如シ

(1) 空電

(2) 混信

(3) 天候

空電

當方面ノ空電ハ強カニシテ且連續性ヲ有シ波長ハ七

〇〇乃至八〇〇ナリ六〇〇^カ九〇〇附近ノモノモアレトモ極

メテ稀ニシテ防信スル程度ノモノニアラス

送信波長四〇〇附近ノモノハ分離ニ付^レモ東京ノ波長ノ

如キハ分離不能ナリ

混信

當方面各地間ノ通信ハ海底電信線ヲ使用セス殆
ト全部ハ無線電信ニ依ル

故ニ各地ニ小勢力ノ電信所ヲ多數設ケサルヘカラス
依ッテ陸岸接航中ハ空電ト相埃ッテ分離ニ甚シ
ニシテ困難ヲ感ス

特ニA.N.Aハ東京ノ波長ト全一ニシテ勢力強ク且送
信多キ急ノ所信スルコト甚シ

天候

スコールニ束籠セントスルヤ受聴器ニシヤ一ト
云フ一種異様ノ雑音ヲ感シ其ノ間感度四乃至五
アルモノモ受信全リ不能ナリ

三所見

1912年式送信機ノ性能

本送信機ハM式四号ニ比シ「フイラメント」電源及アース
 電源カ別個ノ交流機ヨリ来ルカ急メ幾分送信用
 始時時間ヲ要スレトモ負サ何ノ増減ニ対シ電球ノ光度
 殆ド一定ニ送信勢力ノ變化僅少ナルノミナラス且
 濕氣ノ急メニ送信不能トナルコトナシ

(四) 送信法

空電ノ状況ニ依リ當方面ノ電信所ハレレニテ
 送信ニテ

今地方面ニテハ第二法ニテ送信スルヲ可トス

(一) 使用波長ニ就キテ

當方面陸上無線電信所ハ二十米以下ノ波長ヲ使用
 一 空電ハ七〇〇乃至八〇〇附近ニテ防信甚シキ急メ
 使用波長四〇〇附近ノモノヲ採用スルヲ要ス

0224

3

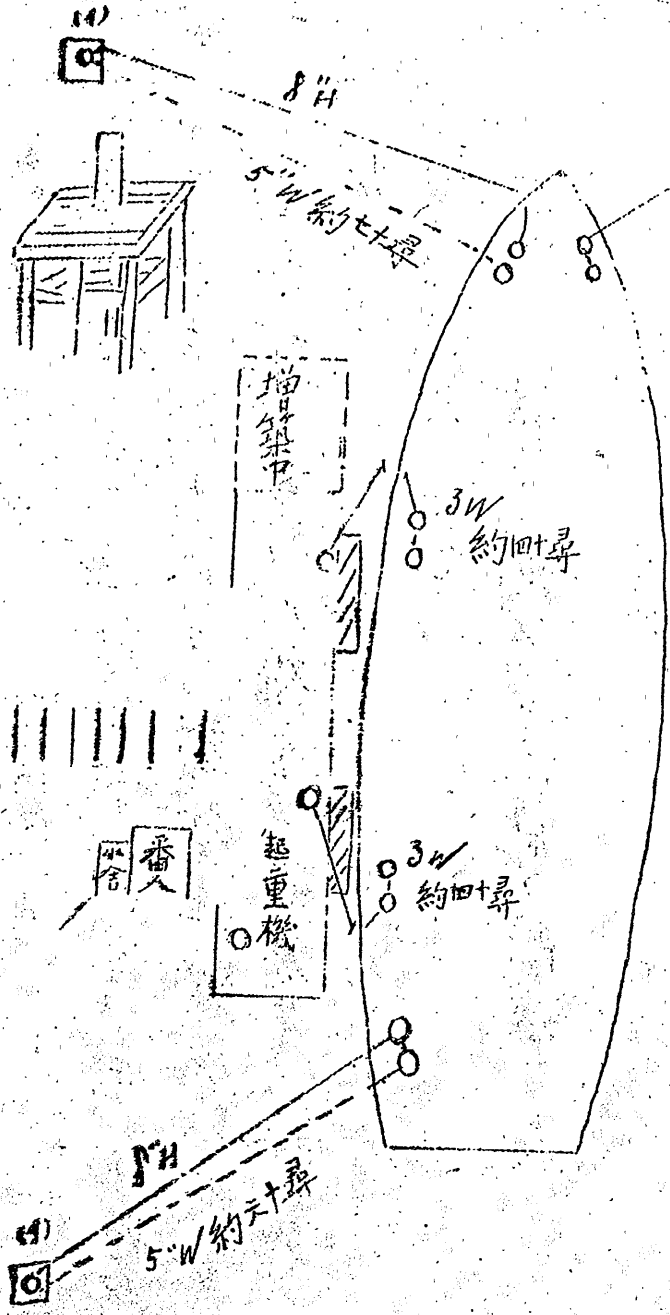
横付棧橋ノ設備及敷系留法其他所見
一バリックパン

(1) 横付棧橋ノ設備

本艦ハC(新第三)棧橋ニ横付セリ棧橋ハタカカニノ
新棧橋ト殆ト同型ニシテ横付面ノ長サ約四十米尚南
方附屬台ヲ増築米中ナリ設備トシテハ貨物運搬
用軌道人力捲揚機一台油送管十吋一本(其端
八吋及六吋ニ分カル)清水管三吋二吋各二本アリ
(2) 敷系留法

速カラ調竹郎ニ棧橋ニ至ルヤ會社機動艇及本艦
内火艇ヲ用先ヅ前部後部ノ順ニ八吋ホーサトヲ鉄水
繫挂ニ採リ此間尚若干適宜ニ機械ヲ使用セリ次デ
前後部鋼索及前後ノスプリングヲ採リ敷系留ラ了ス

(1) 海中鉄本敷繋柱ハクシラカシモノ
 二月シツ槽型ノ台ナリ台上ハ
 教人作非系ヲオシ得ル面積



後船前部六吋水一サーヲ採リ棧橋高ニ方備ヘル
 圖示

(ハ) 其他ノ所見

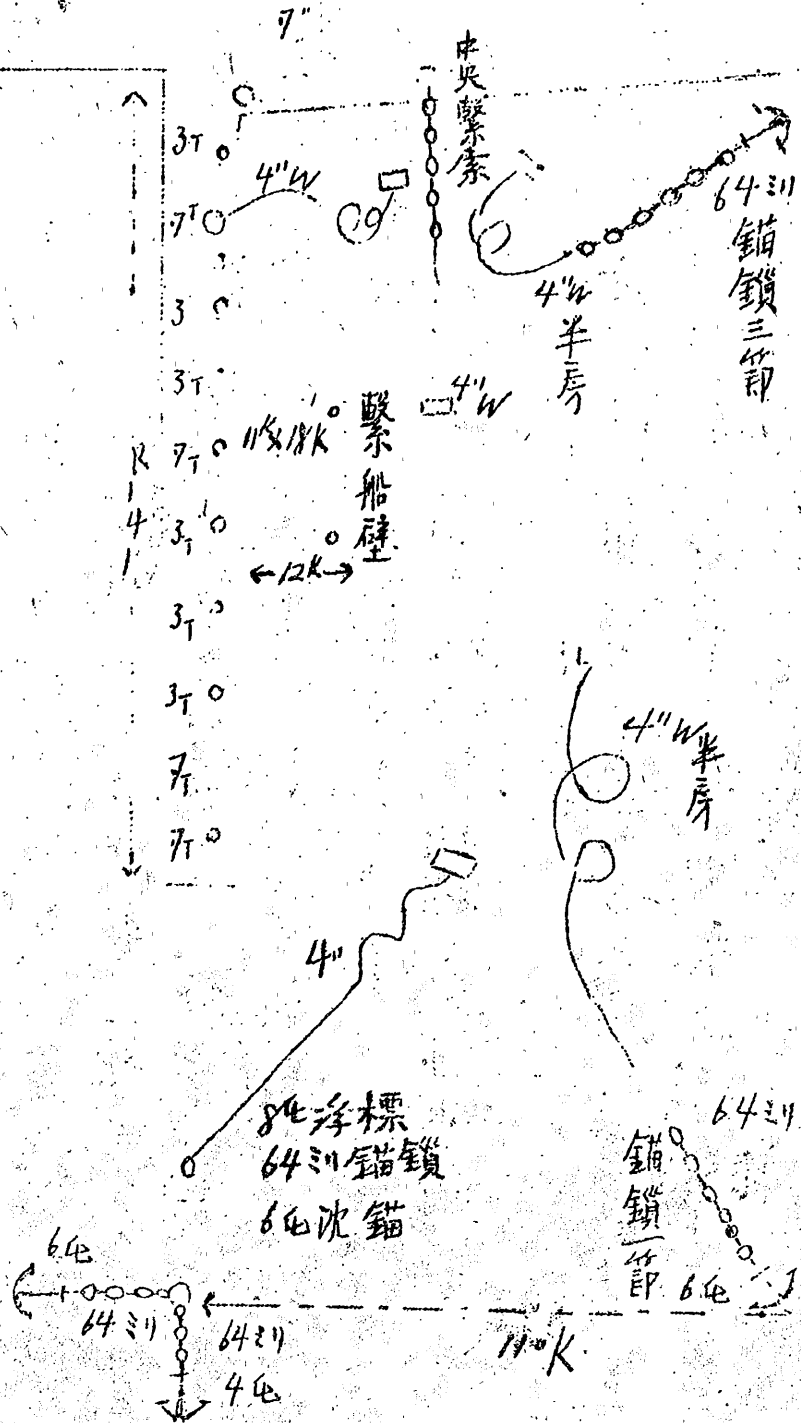
目下出入船舶ノ多キタノ會社側及水先ノ都合ニテ塔
 載終ラバ可成早ク横付ヲ离サントスル傾向アルト又一
 方本艦ノ如キ重油塔載所要時間ニテ時間ノ短時間
 ナレバ普通天候ニテハ較系留用鋼索ハホーサーニ代ヘ較系
 留作業時間ヲ短縮スルヲ適當ト認メタリ

ニ 徳山

(イ) 横付棧橋ノ設備

至トミテ横付ニ関スルモノニ就テ圖示スレバ

横付際燃料廠所有ノ佐馬船ニ舳索ノ渡シ方等ニ助力ス



2

機関科

一 行動前ニ於ケル機関ノ状況

本艦大正十四年三月以降第四豫特務艦ト定メラレ定員二分下ナリ至ヨリ爾末九月間ニ修理及諸手入ヲ施行セシモ末ダ重要ナル主機械曲肱及主軸承白色合金入換及鑛室敷板承支柱等修理其他ノ諸手入ヲ施行スル運ビニ至ラズ如斯狀況ノ下ニ繫留運轉施行後試運轉ノ爲出動シタルニ成績良好ナリ以テ大正十四年十一月一日在役特務艦ニ編入ト同時ニ即日本行動ニ就キタリ

下士官兵八第四豫備艦中二十九名ニシテ他八十四年十月補充交代ノ際全定員トナレリ前航海ニ從事セルモノ僅カ九名其他ハ入竹藉以策比較的航海ニ無經驗ノモノ